PC カンファレンス北海道 2015 開催報告

テーマ：ICT による教育の広域連携を目指して
日　時：2015 年 11 月 14 日(土) - 15 日(日)
場　所：北見工業大学

2015 年 11 月 14 日(土) - 15 日(日)，北見工業大学において，PC カンファレンス北海道 2015 が開催された。テーマは「ICT による教育の広域連携を目指して」で，今回は分科会発表が 22 件あり，その中には北見地区の中学校の先生の発表もあり，北海道の地方の教育を知る 1 つの機会になった。

北海道大学 早岡英介氏による「スタジオ型教室以外でも講義映像を制作可能とするポータブルな e ラーニングシステム」では，どのような教室でも必要最低限の機材を持ち込むだけで収録が可能なポータブルシステムを考案された。画面キャプチャーと音声収録方法について具体的な設置・使用方法の説明がなされた。フロアからは，作成教材に対する著作権上のグレーな部分をどう取り扱うについての質問がなされたが，今後の課題であると理解された。

東京学芸大学 森棟隆一氏による「教員養成教育の質向上を目指したオンデマンド型ビデオコンテンツ開発」では，教員養成系大学プロジェクト（HATO：北海道教育大学（H），愛知教育大学（A），東京学芸大学（T），大阪教育大学（O））のもとで，教材開発がすすめられている。「誰のために何を作成するのか」，「特定の教員に負担がかかる」等の問題点を提案されたのちに，教育実習生の授業改善を主眼としたものを開発された。・専門性を高める　・授業導入の方法　・学習指導案の作成方法　・授業計画と評価基準の作成　・効果的 ICT の活用方法，等で有効な成果がみられた。今後の課題としては，データの蓄積に伴う検索方法の改善と著作権の明確化があげられた。

三玄社 中原敬広氏と名古屋大学 中村泰之氏の「数式オンラインシステム STACK における手書き解答プラグインの試作」では，冒頭にて STACK システムの 4 つの特徴，復習・フィードバック・反転学習・即時採点・ランダマイズ，を説明された。その後，数式能力の壁を提言され，まだまだ，キーボード入力の方が認識率の確実性が高いことも言及された。今回，新たに，ノートと同じように使えるシステムを開発され，数式オンラインテストに導入された。

道内だけでなく，東京，三重，愛知からの発表者・参加者があり，また学生や院生の出席が多く，延べ数 150 名を超える盛大なカンファレンスであった。

文責：吉田 晴世（大阪教育大学／CIEC 副会長理事）